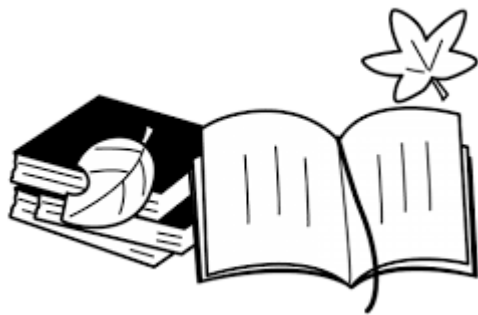


ほんばこ



No. 62

日本教育会館 附設 教育図書館通信

復刊第 62 号 (通巻第 78 号)

2020 年 9 月 10 日発行

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-6-2

日本教育会館 5 F

教育図書館

Tel/Fax : 03 (3230) 4437

Mail : toshokan32304437@jec.or.jp

<http://www.jec.or.jp/tosho/>

● 目 次 ●

- ・『新型コロナウイルス感染症・・・雑感』

原 ひとみ 2 ~ 3 p

- ・《 図 書 紹 介 》

『保健室の先生に聞く 気になるあの子、気になるあのこと』

澤 栄美著 さくら社 2020.5 刊行

『月曜日がつらい先生たちへ：不安が消えるストレスマネジメント』

真金 薫子著 時事通信社 2018.3 刊行

紹介：藤川 伸治 4 ~ 5 p

- ・最近の受入図書 (2020年3月~2020年8月受入)

6 ~ 7 p

- ・教育図書館のご案内

8 p

「新型コロナウイルス感染症

・・・雑感」

原 ひとみ

7月のある日の新聞に、二面を使って大きく「読書感想文全国コンクール・課題図書」の紹介が載っていた。読書感想文は、子どもにとっても保護者にとっても、たぶん夏休みで一番厄介な宿題のトップを争う定番だろうと思う。宿題にするのをやめてしまえばいいのに……と思うが、なかなか変えられない学校もある。「今年も夏休みの宿題になっているのかなあ〜？」新型コロナウイルス感染症による休校の影響で、夏休みが短縮されている学校も多いのに。せめて自由課題になっていれば、といろいろ思いめぐらせていた。

例年（特に中学校は）、課題図書を読んで感想文を書いてくる子どもは少ない。今年は休校中に本を読む時間があつたのだから、そのときに読んだ本で書けば大丈夫という声もあるが、子どもにとってはどうなのかなあ？ 読書が好きだから感想文がすぐ書けるわけでもない。短い休み中に「あれもこれも」と負担になっていないことを祈るばかりだ。本を読むのが苦手な子どもは、たいい読書感想文を最後に回す。ほかの教科をやり終え、そこから本探しを始めることが多い。



「夏休みが短いから宿題は読書感想文だけ」ということはたぶんない。教科のドリルのほうが優先されるだろう。読書感想文がなくなってホッとしている子どもや保護者もいるに違いない。読書は知識や想像を広げるクリエイティブな活動だと思うので、子どもたちに本をたくさん読んでもらいたいけれど、宿題にすることで本嫌いをつくってしまわないか危惧するところである。

図書室は子どもたちの「居場所」

本に親しむために、小学校では週に1時間、図書室で読み聞かせをしたり、中学校や高校では「朝の読書」活動にとりくんでいる学校もある。

「朝の読書」といえば、私が所属している中学校は、大阪でも少し山手にあり、春になると鶯が鳴く。それまでの赴任校では経験したことがなかったもので、鶯の鳴き声が聞こえる中での「朝の読書タイム」は、癒しの時間だった。また、市内の各学校図書館には市費による司書ボランティアが常駐し、子どもたちが読書に親しむようにさまざまなイベントや子ども・教職員のリクエストに応えた蔵書など、常に工夫をしてくれている。そんな図書室が「居場所」となっている子どもたちも大勢いた。

浮き彫りになった図書館の意義と課題

新型コロナウイルス感染症による学校一斉休業や外出自粛要請などで、学校図書館や地域の図書館はどんなようすだったのだろう。

非常事態宣言によって約9割の図書館が休館した。文科省は4月21日、各都道府県に「学校図書館についても、感染症対策を徹底した上で、例えば、分散登校日を活用したり、時間帯を決めたりして貸出しを行うなどの工夫を図ること」と通知した。また、4月23日には、時間を区切つての図書の貸出し・郵送等による配達貸出し・動画コンテンツ等の提供・分散登校を活用した図書の貸出し等の例を挙げ、「休館中の図書館、学校休業中

の学校図書館における取組事例について」周知するよう連絡した。しかし、感染症対策を徹底できるだけの人と物の支援があったのだろうか。学校現場では、消毒液も不足している状況で貸し出した本の消毒はどうするのか、公立図書館が閉館しているのに学校図書館を開館してもいいのだろうか、責任の所在はどこになるのかなど、不安要素が多すぎるという話を聞いた。そもそも学校図書館司書をきちんと配置できている自治体は少ない。先述の司書ボランティアも、労働条件は厳しく過重労働になっていた。皮肉なことに、休校になったことで図書室の整理が時間内にゆっくりできたそう。

Yahoo! ニュースに次のような記事があった。

.....

4～5月は図書館通いがなくなり、出会う本もなく、親子で毎日を淡々と過ごした。ひたすら学校のサイトに上がる宿題プリントして書き込み、課題の水彩画や歌唱、自然観察にも取り組んだ。

(中略)

ステイホーム中は、「読書を」と言われていた。けれど、図書は借りられず、近くの書店は閉店してしまった。子どもは、「話題だから」「広告を見て、おもしろそうだから」という理由よりも、本を手にとって、少し読んでみて、わくわくしたら借りる。図書館がないと、気軽に手に取ることができない。親にとっても、無料で、多様な世界につながる図書館は、ありがたい。昨夏は、図書館の学習室で宿題をした。本を借りるだけでなく、集って、過ごすことのできる場なのだ。

.....

学校図書館も、同じような役割を果たしていることを改めて思った。学校図書館に携わる人の処遇改善は大きな課題である。



休校によって「子どもにとって学校とはどんな場所なのか」を確認する機会になった……と思った。しかし、再開後は「学習の遅れを取り戻す」ことが最優先され、学校現場は感染予防対策と授業時数確保に追われている。「朝の読書タイム」を教科の授業に切り替えている学校も多いだろう。「居場所」を求めている子どもたちにとって、学校はどうあればいいのか、新型コロナウイルス感染症が顕在化させてくれたものを、私たちは見誤ってはいけないと感じている。

(日教組中央執行委員 教育文化局長)

図書館からのおすすめ

『ほんとうのリーダーの見つけ方』 梨木果歩著

2015年に若い人を対象に講演されたものをまとめられたエッセーです。やわらかい言葉でありながら、まわりに流されやすい同調圧力にたいして、自分という本当のリーダーを見つけていく大切さが書かれています。

『コロナの時代の僕ら』 パオロ・ジョルダノ著

2020年2月から3月のイタリア、ローマで物理学者の著者が感じ、考えたエッセーです。コロナ感染者、死者の数字、その時代に生きる科学者の目線のなかに「文学」を感じる作品です。

朝の読書タイムにおすすめです。

《図書紹介》



『保健室の先生に聞く 気になるあの子、気になるあのこと』 澤 栄美著 さくら社 2020.5刊行

7月初旬、知人の養護教員からこんな悲鳴が届いた。

「もう、限界です。いつまで続くかわからない消毒作業。たいへんです。そして、次々と保健室にやってくる子どもたちへの対応。熱っぽい子どもがいれば、すぐに家庭に連絡を行い、一先ずは、保健室の一部をパターションで仕切り、保護者の方が来られるまでそこで待たせています。」

これは、全国の学校で起こっていることであろう。ある民間団体が行った調査によると、教職員の中で最も強いストレスを感じながら働いているのが養護教員だという。今、学校の中で養護教員の果たす役割はこれまで以上に重くなっている。しかし、養護教員は往々にして職場の中で孤立感を抱きがちであり、養護教員からの情報が教職員全体で共有化されていない現実もある。

筆者である澤栄美さんは、38年間養護教員として勤務。その中で培われた実践知をまとめたのが本書である。「はじめに」はこう書かれている。

現実として、学校現場で日々起こるできごとへの対応がうまくいかず、教師（原文のママ、以下同様）が「困っている」のも事実です。そこにきて、「困っているのは子どもなんだから、ちゃん

とやっつよ」と言われても、「自分なりに頑張っているのに、どうしたらいいの?」と、さらに教師の「困り感」は、増していくのではないのでしょうか。

保健室では、この教師の「困った」への助けを求められることが多くあります。また、本人はよかれと思っている対応がまずいため、結果的に保健室に事例が持ち込まれるということも少なくありません。

なぜ、対応がうまくいかないか、筆者はこう述べている。学校では、授業研究等について研修は多く行われるが、心理や発達等についての研修は少なく、子ども理解の基礎となる大切な知識を十分持たず、自己流や手探りで子どもの対応をしているからだ。インクルーシブな学校には、多様な子どもたちが通ってくる。さらに、コロナ禍のなかで子どもたちは、イライラ、ストレスを感じ、それを心の内に押し込めて学校生活を送っているに違いない。どうしてもその気持ちを表に出さざる得ない場面があるだろう。真っ先に、気持ちを訴えるのは「保健室の先生」かもしれない。

本書は、実践知だけでなく、心理学等の専門的な知見を踏まえて、子どもたちの発する「SOS」に対して教職員としてどう対処するのが示されている。例えば、顔は真っ赤になり、息が荒く、体中に力が入っているパニック状態の子どもに対してどのように接するか、心理、医学面の知見を踏まえ次のように書いてある。

【刺激から遠ざける】とにかく離す、仕切りのある空間で過ごさせる。

【意識をそらす】興味のある物を差し出す、興味のある話題をふる、別の「できごと」を作る。

【身体にはたらきかける】身体を冷やす、深呼吸をさせる、安心感を与える。

「困り感」を抱く教職員にはすぐに読んでほしい。きっとヒントが見つかるはずだ。



『月曜日が先生たちへ
: 不安が消えるストレスマネジメント』
真金 薫子著 時事通信社 2018.3刊行

8月22日の毎日新聞に「教員残業80時間超57%」「公立7月 学習挽回や消毒負担」という大きな見出しが載っていた。教員の支援に取り組むNPOが全国の公立学校などの教職員の勤務実態を調べた結果、過酷な勤務状況が明らかになった。疲労感などは労働者全体の標準値と比較して3倍以上になっているという。疲労感やストレスが強い教員ほど「子どもの話をしっかり聞けなくなる」「いいかげんな授業をしてしまう」と回答する割合が高いこともわかった。つまり、長時間労働は、高い疲労感につながり、その結果、教育指導にも影響していることがエビデンスで示された。子どもの話をしっかり聞くというのは、教育活動の根幹である。その点が脅かされている現状は、教育の危機と言ってもよい。だからこそ、教職員の長時間労働を縮減していく必要がある。

一方で、教職員の増員や学習内容の更なる削減は、すぐには実現しないだろう。そこで、重要となってくるのが、ラインによるケアの充実、教職員自身がストレスマネジメントを学び、実践することだ。しかし、教育界には、「頑張ればなんとかなる」といった精神論がまかり通っているのが現実であろう。そのため、ラインによるケア、ス

トレスマネジメントを学ぶのは教職員の自助努力による場合が多い。

本書の著者である真金薫子医師は、教職員のメンタル疾患に関わって、国内でもトップクラスの診療経験がある。また、文科省「教職員のメンタルヘルス対策検討会議」委員も務めた。

特に、「第4章学校の先生にお勧めしたいストレスマネジメントアラカルト」は必見である。まずは、ストレスマネジメントで陥りがちの勘違いが、「ストレスの原因を何とかしなければならない」という発想だと指摘されている。ストレスは生きていくうえでは誰しもが持つものであり、それ自体良いものでも、悪いものでもないが、ただ、強すぎるストレスや、個人的に苦手とするストレスを受けた場合に、問題が起こることがあるという。問題がある場所は、他でもない自分の心身であり、その心身の反応をコントロールするスキルを持てばよいだけのことである。本書は、いくつかのスキルが紹介されている。

一つ目は、マインドフルネス、今、この瞬間に意識を向けるといスキルである。実は、このスキルは、仏教の「瞑想」「禅」と同じものである。Googleが社員研修に取り入れたことで有名になった。椅子に座ったまま、鼻から空気が出入りする感覚に集中する、お尻と椅子が接している感覚に集中するだけで随分とすっきりするという。

二つ目は、より良い睡眠を取るということだ。NPOの調査では、よく眠れないと回答した教職員の割合は、地方公務員（教職員を除く、調査期間20年7月）と比較して約3倍弱に達している。そして、よく眠れないと回答した教職員は、「子どもの話をしっかり聞けなくなる」という割合も高くなっていることも分かってきた。たかが睡眠、されど睡眠なのである。この一冊があれば、ストレスマネジメント、ラインによるケアのポイントがわかり、実践にうつすことができる。

藤川 伸治（元日本教職員組合中央執行委員）

最近の受入図書

(2020年3月～2020年8月受入)

【日教組刊行物】

- 『日本の教育』第69集 日本教職員組合編著 アドバンテージサーバー 2020.7
- 『わたしたちの青年部運動』第43集～第45集 日教組青年部常任委員会編 (株)アドバンテージサーバー 2020.3

【教育総研・県教組刊行物】

- 『「民意」と政治的態度のつくり方』 堅田香緒里 工藤宏司 広瀬義徳 柳沢文昭 桜井智恵子 水岡俊一編 太田出版 2020.5
- 『能力2040 ― AI時代に人間する』 池田賢市、市野川容孝、伊藤書佳、菊地栄治、工藤律子 松嶋健編 太田出版 2020.5
- 『季刊フォーラム教育と文化』97号 教育文化総合研究所編 (株)アドバンテージサーバー 2020.3
- 『季刊フォーラム教育と文化』98号 教育文化総合研究所編 (株)アドバンテージサーバー 2020.3

【文部科学省刊行物】

- 『文部科学統計要覧』令和2年版 文部科学省著 (株)ブルーホップ 2020.5

【平和資料】

- 『わたしたちのシベリア抑留』 小柳ちひろ著 文藝春秋 2019.12
- 『少年志願兵』 柴田芳見著 叢文社 1983.7
- 『草:日本軍「慰安婦」のリビング・ヒストリー』 キムジェンドリグムスク作 ころから 2020.2

【和雑誌】

- 『わたしたちはあゆみつづける』 第11回(1965)・第12回(1966)・第14回(1968)・第16回(1970)・第18回(1972)……日本母親大会連絡会

- 『新しい教室』2巻(昭22:1947) 5・6・8・11・12号～4巻12号 中等学校教科書出版

【社会・歴史・教育】

- 『10代からの批判的思考』 名嶋義直編著 明石書店 2020.4
- 『「過干渉」をやめたら子どもは伸びる』 西郷孝彦 尾木直樹 吉原毅著 小学館 2020.4
- 『菊池先生の「ことばシャワー」の奇跡』 菊池省三 関原美和子著 講談社 2012.10
- 『アフターコロナ世代の子育て』 山田真著 ジャパンマシニスト社 2020.6
- 『迷走する教員の働き方改革』 内田良、広田照幸、高橋哲、嶋崎量ほか著 岩波書店 2020.3
- 『「任せる」マネジメント』 住田昌治著 学陽書房 2020.6
- 『世界と日本をむすぶ「歴史総合」の授業』 歴史教育者協議会編 大月書店 2020.5
- 『現代日本教育費政策史』 井深雄二著 勁草書房 2020.3
- 『データから考える教師の働き方入門』 辻和洋 町支大祐編著 毎日新聞出版 2019.2
- 『校歌の誕生』 須田珠生著 人文書院 2020.3
- 『不登校の子どもに何が必要か』 増田健太郎編著 慶應義塾大学出版会 2016.3
- 『まんがで知る未来への学び1』 前田康裕文漫画 さくら社 2019.3
- 『学校ガバナンス改革と危機に立つ「教職の専門性」』 浜田博文編著 学文社 2020.1
- 『ひきこもり問題を講義する』 近藤直司著 岩崎学術出版社 2019.12
- 『子ども中心の教育法理論に向けて』 戸波江二 西原博史編著 エイデル研究所 2006.11
- 『高校生の法的地位と政治活動:日本とドイツ』 結城忠著 エイデル研究所 2017.3
- 『感染症の世界史』 石弘之著 KADOKAWA 2018.1
- 『木村草太の憲法の新手2』 木村草太著 沖縄タイムス社 2019.7

『教師という接客業』 齋藤浩著 草思社 2020.7
『教師崩壊』 妹尾昌俊著 PHP研究所2020.4
『なんのために学ぶのか』 池上彰著 S Bクリエイティブ 2020.3
『就業規則の変更による労働条件不利益変更の手法と実務』 浅井隆・小山博章・中山達夫共著 日本法令 2019.8
『コロナの時代の僕ら』 パオロ・ジョルダノー著 早川書房 2020.4
『ポスト・コロナショックの学校で教師が考えておきたいこと』 東洋館出版社編 東洋館出版社 2020.5
『教師・親のための子ども相談機関利用ガイド』 小林正幸・嶋崎政男編 ぎょうせい 2020.8
『人類と病』 詫摩佳代著 中央公論社 2020.4
『帝国ホテルに働くということ』 奥井禮喜著 ミネルヴァ書房 2016.7
『教師の責任と教職倫理』 久富善之 長谷川裕 福島裕敏編著 勁草書房 2018.7
『教室の中の困ったを安心に変える102のポイント』 菊池省三 菊池道場著 中村堂 2020.2
『兵器を買わされる日本』 東京新聞社会部著 文藝春秋 2019.12
『誰がタブーをつくるのか?』 永江朗著 河出書房新社 2014.8
『ワイルドサイドをほっつき歩け』 ブレイディ みかこ著・文・その他 筑摩書房 2020.6
『発達障害の子る一くんとお母さんのマンガ子育て日記』 裕木晶子著 星和書店 2020.5
『海底の支配者底生生物：世界は「巣穴」で満ちている』 清家弘治著 中央公論新社 2020.2
『新・大学で何を学ぶか』 上田紀行編著 岩波書店 2020.2
『論語と算盤』 渋沢栄一著 角川学芸出版 2008.10
『日本のセーフティーネット格差：労働市場の変容と社会保険』 酒井正著 慶應義塾大学出版会 2020.2

『棄民世代』 藤田孝典著 S Bクリエイティブ 2020.4
『直指人心：北田耕也先生追悼集』 北田耕也先生追悼集編集委員会 2020.7
『生活綴方で編む「戦後史」』 駒込武編著 岩波書店 2020.6
【家庭・芸術・趣味・文学一般 ほか】
『保健室のアン・ウニョン先生』 チョン・セラシ著 斎藤真理子訳 亜希書房 2020.3
『ほんとうのリーダーのみつげかた』 梨木香歩著 岩波書店 2020.7
『ほんのちょっと当事者』 青山ゆみこ著 ミシマ社 2019.12
『ポラリスが降り注ぐ夜』 李琴峰著 文藝春秋 2019.7
『星月夜』 李琴峰著 集英社 2020.7
『私は本屋が好きでした』 永江朗著 太郎次郎社エディタス 2019.12
『21 Lessons』 ユヴァル ノア ハラリ著 河出書房新社 2019.11
『首里の馬』 高山羽根子 新潮社 2020.7
『少年と犬』 馳星周著 文藝春秋 2020.5
『一人称単数』 村上春樹著 文藝春秋 2020.7
『流人道中記』 上・下 浅田次郎著 中央公論新社 2020.3
『猫を棄てる』 村上春樹著 文藝春秋 2020.4
『売上を、減らそう。』 中村朱美著 ライツ社 2019.6

編集後記

コロナによって、さまざまな楽しみが減っていますが、本を読むことの楽しみ、大切さを感じます。本は人の考え方、置かれた状況を伝えてくれます。人とのつながりを大切にしながら、困難を克服していきたい時代です。(川内)

教育図書館案内

- * 開館時間：10：00 ～ 16：30
- * 開館日：火・水・木
(閲覧をご希望の方はご予約をお願いします。)
- * 蔵書の貸出
貸出冊数：5冊／貸出期間：3週間
(利用者登録が必要です。)
- * 閉館時返却方法
図書館入口前の「ブック・ポスト」をご利用下さい。
- * レファレンス・サービス
当館所蔵の図書・雑誌、その他教育に関するお問い合わせに対応しています。
- * コピー：白黒1枚10円／カラー30円

特別コーナー

- 平和資料コーナー：
反核（原発関連を含む）・平和運動、平和教育教材、平和教育実践記録、戦争体験記など
- 日教組刊行物コーナー：
日教組教育新聞・教育評論・月刊JTUなど
- 教育総研刊行物コーナー：
年報、理論講座、ブックレット、季刊「教育と文化」、各研究委員会報告書など
- 日教組教研全国集会報告書・県教研のまとめ
- 都道府県・高教組史誌、同機関誌
- 文部科学省統計調査報告書・刊行物：
学校基本調査、国際比較、教育費、学習指導要領、指導書など
- 海老原治善文庫：元東京学芸大学教授、教育総研初代所長海老原治善氏からの寄贈書

- 鈴木喜代春文庫：児童文学者、元教育相談室相談員鈴木喜代春氏の著作本、寄贈書
- 人権・防災・減災コーナー
人権関係、東日本大震災など災害の記録等

蔵書の特徴

- 教育関係図書を中心に和書、和雑誌・新聞・洋書、洋雑誌などを収蔵しています。
- 蔵書数 約68,000冊（2020年4月現在）
- 教育図書館のホームページの蔵書検索の画面から検索できます。
(<https://ilisod001.apsel.jp/kyoikutoshokan.lib/wop/pc/pages/TopPage.jsp>)
- 千代田区立図書館のホームページ「大学・専門図書館横断検索」からも教育図書館の蔵書が検索できます。

交通案内

- 神保町駅 A1出口より徒歩3分
- 九段下駅 6番出口より徒歩7分
- 竹橋駅 1b出口より徒歩5分
- 水道橋駅西口 徒歩12分（JR総武線）

